

## 無頭川遺跡のコハク製平玉（コラム まちの貴重な文化財）

### 読みもの・コラム

投稿者：：

Posted on : 2022-2-11 11:30:00

広報ふらの・コラム「まちの貴重な文化財」No.8

2月号で紹介するのは続縄文時代から続く驚くべき技術力・「無頭川遺跡のコハク製平玉」です。



08 まちの貴重な文化財

### 無頭川遺跡の コハク製平玉

#### 続縄文時代から続く驚くべき技術力



緑峰高校からスポーツセンター周辺の桂木町・西町には、縄文～続縄文時代の無頭川遺跡が地面の下に広がっています。発掘調査の結果、約2,500～2,300年前の縄文の終わりから続縄文時代のはじめ頃の集団墓が発見され、副葬された土器や矢じり、ナイフなどの様々な石器類が出土しました。中でも注目すべきは、続縄文

時代に製作された直径6～12mmの深紅のコハク製平玉で、複数のお墓から約1万点が発見されました。

コハク製平玉は、綺麗に磨かれ比較的薄く、規格性の高いものです。こうした平玉がどのような製作過程と道具で作られたのか、コハクはどこで採取されたのか、実はまだ詳しく分かっていません。当時、平玉製作の技術者集団が富良野地域に暮らし、道内外に大きな影響力を持っていたかもしれません。

富良野市博物館 ☎ 42 - 2407